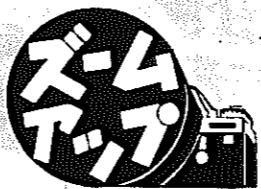




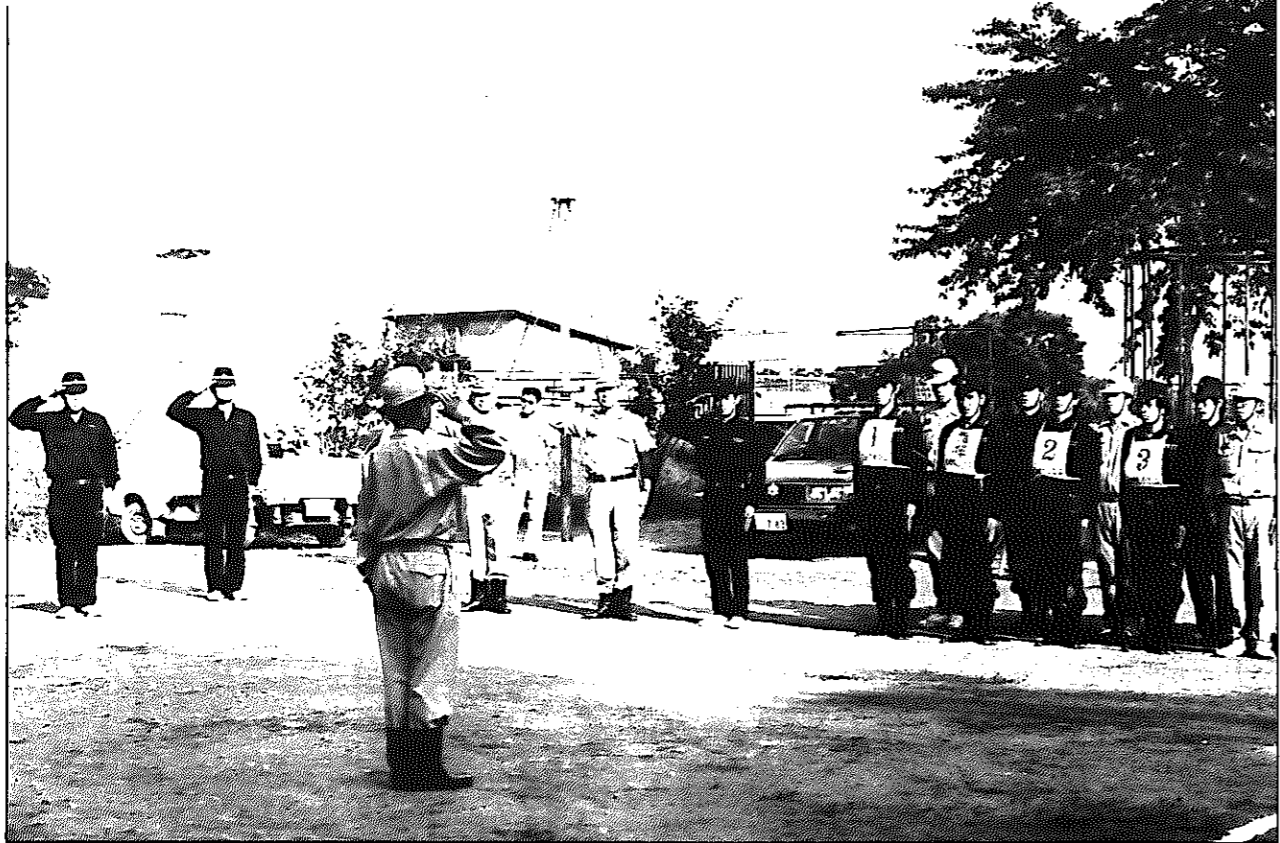
▲ 秒を争う競技だけに、管槍のかつき方にも安達指導官の注意が飛ぶ
かんそう

県消防大会ポンプ操法競技大会へ出場 がんばれ兔・古川・真木分団



「火点前方の赤旗。水利右後方自然水利……定位につけ、操作始め」。やり直し、もう一度。八月七日、小千谷市で開催される、県消防大会ポンプ操法競技会の出場を間近に控え、三市中浦地区代表の庄瀬第二分団（兔・古川・真木）の猛練習が、庄瀬小グランドで続けられています。

選手は指揮の遠藤 勉さんをはじめ小林智行さん、本間 実さん、高橋 求さんの四人。それぞれが会社員、農協職員、左官職と職業が違うために練習は主に夜です。また、ホース巻きなどで協力する他の団員。おしぼりや冷たいお茶を運ぶ婦人たちなども仕事の疲れも見せず、一生懸命に選手を盛り立てています。



▶ この日は早朝練習午前六時に小学校のグラウンドに全員集合し、小林市消防団長の点検を受ける

選手たちの疲れも今がピークで声がつぶれ、ホホもゲッソリとやせこけ、練習の厳しさを物語っています。指導にあたる消防署の小林則夫士長は、「十一回の大会で、本市から出場するのは今回で二回目です。それだけに大会の雰囲気にもまれなければ良いのですが。トップは四十五秒台で争うことになると思われまます。これからの練習で四十秒台後半のタイムがコンスタントに出せるよう、指導していきたい」と話してくれました。大会当日は、部落はもちろん庄瀬地区や三市中浦から、大型バスを仕立てての応援団が送りこまれることになっています。約二か月にわたる苦勞を本番で、見事吹き飛ばしてほしいものです。



▲ 一挙一動にむだは許されず遠藤指揮者の号令で節度のある動きをみせる



▲ 目標地点を正視「緊張の一瞬」



▼ 「ポンプ異常なし」指揮者の号令を待つ



▶ およそ八キロのホースを肩に六十秒を全力疾走、日によっては五回以上もこの練習がくり返される



▲ ホースの関尺など選手以外の団員たちもそれぞれの持ち場で協力